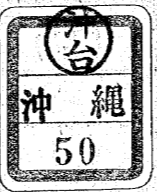


沖繩

海上視察

南西諸島作戦区域現地協定



防衛研修所

球、参防某の號

「南西諸島作戰」因寸の現地協定」送付、件通牒

昭和19年6月20日

某の軍參謀長

重砲兵某の聯隊長 殿

首題、件列冊の通、送付す

追而左記書類は未着に付到着次第送付す

下

記

南西諸島、台湾及び支那諸島方面作戰に因寸の陸海軍中央協定

国内防衛に因寸の陸海軍任務分擔協定

西部軍、佐世保鎮守府南西作戰、組部分擔協定

防衛研修所

南西諸島作戦三回寸る現地協定

第三十二軍司令部

防衛研修所

┌南西諸島、臺灣及小笠原諸島方面作戰┐
┌國內防衛┐
┌國土防衛┐
┌陸海軍中央協定┐
┌南西作戰┐
┌中央協定┐
┌略稱┐
┌西部隊┐
┌在島保鑣部隊┐
┌南西作戰組部協定┐
┌及┐
┌西部隊┐
┌在島保鑣部隊組部協定┐
┌其┐
┌南西諸島作戰┐
┌因┐
┌左┐
┌如┐
┌協定┐
┌也┐

昭和十九年六月十二日

第三十二軍司令官
第四海上護衛司令官
沖繩第四根據地隊司令官

防衛研修所

第一條

中央協定第一條第二號ニ據リ海軍ニ於テ軍防室ニ擔任セシキ所在ノ區域ハ附表

第一ノ通シトス

第二條

中央協定第九條第一號(ロ)ニ據ル陸軍海軍海軍地中直接海軍ニ關係スルもの附表

第一及附屬ノ如ク同第一號(ハ)ニ關シテ海軍ニ駐屯スル港ハ古ノ屋港
那霸港(沖縄) 平良港、石垣港及船浮港トス

第三條

旧要塞(旧臨時要塞(金玉))所在地ニ於テ海面ノ防禦分擔ハ中央協定

第十一條ニ準ビ概如ク現存ノ通シトス 那霸港、平良港及石垣港、海面防禦ハ前項

ニ準ビ陸海協同シテ之ニ行ハス

前二項ノ實施ハ何等ノ重要ナル部署並ニ其部署ノ變更ヲ豫メ軍司令官、國海

軍司令官相互ニ通報ス

第四條

中央協定第十二條ニ據リ海軍ハ陸軍ニ援助スル地域左ノ如ク

旧奄美大島要基地也

那 覇 市

平 良 港

石 垣 港

大 東 島

第七條 南西作戰中央協定五。(四) 據各統一指揮官各島嶼於中陸上
戰事開始時決定其位置、陸海軍指揮官任務及所在、連絡協定
為位置、但其在海軍指揮官任務及海軍部隊陸上戰鬥參加
方針時以之統一指揮官權限方針。

第六條 陸軍、防衛擔任區域中與島嶼各島嶼各區域之緊急、必要
場合、於其要司令官又各各準備隊長、要求、依其在海軍之防衛援助、
又島嶼若其區域之海軍、必要與之協定、上陸軍之艦隊、
第七條 陸軍防衛部隊所在地附近、海軍艦隊部隊所在地、於其防衛
、海軍行不戰鬥、國、陸軍防衛部隊及海軍艦隊部隊、應接、協力
方針、也。

防衛研修所

第六條 南西作戰中央協定八。據軍、行不機帆船形、以之其軍隊及
軍需品、高運輸送、其海軍、其極力直接護衛、附、也。

第九條 細部分協定 第七條、基之(軍探)情勢、授受、軍司令、海軍
根據地司令、部、緊密、行、各島嶼、陸海軍指揮官、其、其、
其、其、細部、要領、各島嶼、其、協定、也。

附表 第一

海軍に於て航空に擔任すべし所在地。区域
(海軍航空隊及海軍航空基地)

名	稱	位置	海軍用途
喜界島	基地(陸上)	鹿野島東大島郡喜界島	
那覇	“	沖縄県島尻郡小糸村	
南大東島	“	“ 南大東島	甲
宮古島	“	“ 宮古郡下里	甲
石垣島	“	“ 宮古郡大浜村	
奄美大島	基地(水上)	鹿児島県大島郡古仁屋町	
馬天	“	沖縄県島尻郡佐敷村馬天	

防衛研修所

附表 第二

海軍に直接関係する陸軍海運地

名	稱	使用区域
那覇	瀬港	泊港 奄美令志
古仁屋	港	久慈波、薩川湾及古仁屋南側(附圖参照)
渡久地	港	
川平	港	
奥那原	港	
平良	港	
石垣	港	
糸浮	港	祖納跡一外離島一「カバ」跡(連打線以来の避泊锚地 OR 附近には海軍の駐屯又は派遣する港に現存陸軍の 使團(あしき)区域、警備は海軍側之に擔任す)

